



会員寄稿

音響機器に関する近況に思う

渡 辺 寿 幸

先日、娘の誕生日にMP3プレーヤーをプレゼントした。大変に軽くて小型で使いやすいので娘は大喜びしている。音楽ファイルの出し入れは極めて短時間に出来、以前にも増して膨大な曲数が収納出来てしまう。モーター駆動ではないので跳んでも跳ねても音ぶれしない。ここまでは従来のMP3プレーヤーと変わらないのだが、私が驚嘆させられたのは他にある。付属のソフトをインストールした後、USB接続をするだけで自動的にソフトが立ち上がり音楽ファイルのライブラリー・フォルダーが一目でわかる。更に音楽ファイルの販売サイトにもワンクリックで接続出来、CD店へ行かなくても自宅でショッピング出来てしまう。PCのフォルダを開いてドラッグ・アンド・ドロップなど、もう時代遅れになってしまったのだ。しかも、取り出しの際にドライバーを停止させずにUSBをそのまま引っっこ抜いても良いのにはビビってしまった。ここ2～3年での進歩にビックリさせられた次第である。

近年、携帯音響機器はデジタル化により目醒ましい進歩を遂げており、大変便利で気軽に音楽を持ち歩ける様になったのは誠に喜ばしい事である。若者世代に急速に普及しているもので筆頭に挙げられるのがMP3プレーヤーもしくはハードディスクレコーダーであろう。今やパソコンは若者の生活必需品となっており、なおかつインターネットの普及率も高い環境が、そのような携帯デジタル音響機器の普及を一層促進させた一つの要因であろう。

思い返せば、かつて我々の世代がまだ若者世代と呼ばれた頃、カセットテープを外で聴けるステレオ・ウォークマンが登場した時には大変に衝撃を受けたのを記憶している。それまでは若者と言っても音楽は室内で大きなコンポで聴くのが主流

であったのだ。ウォークマンの登場は、インドアに引きこもりがちな音楽ファンをアウトドアに連れ出した画期的な出来事であったのだ。しかし、その後はしばらくの間は大きな変化は無かったのも事実である。なぜならメディア媒体が所詮アナログから脱する事が出来なかったためであろう。我々にとって音源はレコードのみであり、頻繁に聴きたい曲はカセットテープにダビングするしか手段は無かった。その後バブル期にはレコードに代わりCDが登場するものの、録音メディアとしてはカセットテープしか無かったと思う。所詮、デジタル・レコーディングなど、プロにしか出来ない高価な技術なのだと思っていた。アナログ・レコーディングの本質的限界は音質の劣化にある。ノイズを除去するためにドルビーシステムが幾種類も開発されたが、ダビング前と比較すると、明らかに音質の違いが出てしまう。これには妥協するしか無かった。その後、MDが登場し、デジタル・レコーディングが身近な存在になった。この時には衝撃を受けた記憶がある。しかし、モーター駆動であるため、バッテリーの寿命や重量・大きさ・音ぶれ・ディスクを出し入れしなければならぬ・等の問題はカセット・テープ時代と大差無かったのも事実である。

しかし、内蔵メモリーに圧縮ファイルを収納するシステムはそれらの問題を一気に解決してしまったのだ。今後暫くはMP3プレーヤーが主流となるのは必至であろうと思われる。この機能は携帯電話にも採用され、電話で音楽を楽しめる時代になった。しかもカメラ付きは当たり前で、一昔前のデジカメを遥かに凌ぐ画素数になり、ましてやテレビが見られたり、ビデオカメラ並の動画が撮れたりする機種まで登場する。デジタル機器の進化は誠に目醒ましい。

今後、デジタル技術が歯科医療を大きく前進させてくれる事を期待している。

